

第六軍司令部部隊略歴

年 月 日	概 要
昭四、八、二 至四、九、二六	第六軍司令部 軍司令官陸軍中将 十川次郎 滿州因興安北省海拉爾に於て編成完結す 向「ノモンハン」事件に参加す 停戦協定成立以後昭和二十年二月十一日に至る間海拉爾に在りて同地附近の警備に任ず
二〇、二、二一	大陸命甲第一二二三号に基き中支杭州附近に進駐のため海拉爾出発同年同月二十一日到着昭和二十年八月三十一日に至る間同地附近の警備に任ず
二〇、八、二一	移駐のため杭州出発同年同月二十二日南京到着同地に在りて終戦業務に任ず
二〇、五、八	帰還のため南京出発同年同月十日上海に到着同地に在りて帰還輸送處理に任ず
二一、六、二四	帰還のため上海出帆
二一、六、二〇	鹿児島港上陸
二一、六、三三	除隊召集解除了す
	軍司令官以下三十八名は乗船停止の爲上海に残留す 兵力



# 第六軍經理部出張所部隊

第六軍經理部出張所

陸軍建技少佐 吉田 圭一郎

年月日

概

要

昭和十八年七月一日より二十年十月十四迄第十三軍經理部南京出張所として南京周辺地区の軍用施設業務を担任（終戦後は保有資材の中国側への引継、南京地区日本軍使用建造物調査等）し及びたると同年十月十五日第六軍司令部に転属、第六軍經理部出張所と改称、昭和二十年一月一七日帰還のため南京出発、十九日上海着、同年三月二十日上海港出帆三月二十九日博多港上陸人員区分

計	軍 属	准士官 下士官	将	区	合	計	摘 要
			校	分			
六	五	一	一	一	二	二	部隊長を含む
二六	一五	九	二	二	二	二	
三二	二〇	一〇	二	二	二	二	

備考  
居留民の名目にて帰還せる家族携行者は二月二十三日上海出帆海王丸に乘船

	年 月 日
<p style="text-align: center;">部 隊 輸 送 間 に 於 け る 事 故 者 な し</p>	<p style="text-align: center;">帰 国 せ り</p> <p style="text-align: center;">後</p> <p style="text-align: center;">要</p>

外

2860

〜々〜

2860

第六軍法務部部隊略歴

无任君 陸軍法務准尉 田上貞夫

年月日	概要
四、一	支那派遣軍刑務所復員に伴う囚徒護送援助の目的を以て刑務所に配属 刑務所長陸軍法務中務大尉加藤七兵衛の指揮下に入る
四、四	先任者田上准尉以下七名(准士下一、下士官五、兵一名)リバテイ型(VO2)に依り飯選のため上海出帆
四、五	博多上陸 囚徒を福岡刑務所に引渡し護送援助任務終了 刑務所長の指揮下を離る 関係書類を支那派遣軍刑務所残務整理者に依託し飯郷す

~5~

2861

第六軍衛生材料製作班部隊略歴

部隊長 陸軍少佐 春田清美

年月日	概	要																								
昭三、三、九	行動の概要	第六軍司令部主力と分離																								
三、三〇		班長陸軍少佐春田清美下百三十五名上海出發（V〇二五号に依り）																								
三、三		博多港に入港せるも迫近第二十大隊に假痘発生を為五日間隔離																								
三、九		博多港に上陸同日復員式終了し鈴木大尉以下百三十三名転役、召集解除、春田中佐、小林准尉は残務整理の為復員本部に出頭す																								
		階級区分左の如し																								
		<table border="1"> <tr> <td>一</td> <td>中佐</td> </tr> <tr> <td>一</td> <td>大尉</td> </tr> <tr> <td>二</td> <td>中尉</td> </tr> <tr> <td>二</td> <td>准尉</td> </tr> <tr> <td>三</td> <td>曹長</td> </tr> <tr> <td>三</td> <td>軍曹</td> </tr> <tr> <td>九</td> <td>伍長</td> </tr> <tr> <td>一四</td> <td>兵長</td> </tr> <tr> <td>四一</td> <td>上兵</td> </tr> <tr> <td>五八</td> <td>軍属</td> </tr> <tr> <td>一</td> <td>少尉</td> </tr> <tr> <td>三五</td> <td>計</td> </tr> </table>	一	中佐	一	大尉	二	中尉	二	准尉	三	曹長	三	軍曹	九	伍長	一四	兵長	四一	上兵	五八	軍属	一	少尉	三五	計
一	中佐																									
一	大尉																									
二	中尉																									
二	准尉																									
三	曹長																									
三	軍曹																									
九	伍長																									
一四	兵長																									
四一	上兵																									
五八	軍属																									
一	少尉																									
三五	計																									

~6~

2862

第六軍獸医勤務班部隊略歴

部隊長 陸軍獣医大尉 三浦正吾

年月日	概 要
三三・三・九	第六軍司令部主刃と分離
三・三〇	班長 獣医大尉 三浦正吾 以下五十二名 上海出発（V〇二五号）
三・三三	博多港に入港やる寸直惠第二十六隊、假痘発生のため隔離（五日間）
三・三九	博多港に上陸三浦大尉以下五十二名 警役、召集解除 輸送途中の事故なし
	将校 四名
	下士官 二〇名
	兵 三八名

第六軍司令部学徒班部隊略歴

陸軍少尉 中 久 二

年月日	概 要								
昭三、三、三〇 三、三、三〇 三、三、三〇	<p>中華民國上海に於て第六軍指揮下各部隊より復学希望者(学徒出身)を抽出                  編成せるものなりす                  内地帰還のため上海港出帆                  博多港上陸                  人員区分(総員二十九名)</p>								
<table border="1"> <tr> <td>將校</td> <td>下士官</td> <td>兵長</td> <td>上等兵</td> </tr> <tr> <td>四</td> <td>五</td> <td>四</td> <td>一六</td> </tr> </table>	將校	下士官	兵長	上等兵	四	五	四	一六	
將校	下士官	兵長	上等兵						
四	五	四	一六						

二 小

中 久 二



第六軍野戰郵便隊部隊略歴

年月日	概要
	<p>野戰郵便隊は従来第十三軍に隷屬し同軍司令部の一部として処理せられおりたるものなるが十一月十四日附第六軍に編入替と共に管内野戰郵便隊は通信事務官横山武男を隊長とし之を總稱して第六軍野戰郵便隊と名稱せらるるに至れり</p> <p>而して終戰時に於て管内には南京城内(第四〇局)南京飛行場内(第四〇局第一分局)南京下関(第四四局)總司令部内(第四四局第一分局)湯水鎮(第四九局)蚌埠(第一〇〇局)鎮江(第一〇二局)蕪湖(第一〇三局)安慶(第一一〇局)徐州(第一二〇局)海州(第一六〇局)の十一局を配しありたるが情勢の推移に伴い別に南京に郵便本部出張所設置の要を生じ九月下旬上海より要員を派遣之が開設を見たり其の後局数は逐次集約整理し遂に十月末日限り全面的に其の一切の業務を附鎮し要員亦集中し南京光華内外集中中營及馬鞍山集中營に於て夫々集團生活を営み居りたるも内地帰還の爲一月中旬以降逐次上海に集結し三月十五日集結を完了せり</p> <p>尚徐州(第一二〇局)海州(第一六〇局)は十一月十四日附第十三軍へ鎮江(第一〇二局)は第十三軍に夫々配屬せられたり</p> <p>上海に集結を完了せる当隊は三月二十日通信事務官市川若を指揮官とする先</p>

~9~

2865

年月日	
要	<p>遺隊六十七名上海乗船同二十三日博多上陸復員し本隊五十四名(従軍第三課五名を掌権す)は三月二十八日上海上船四月一日佐世保港上陸同日復員す</p>

三  
四  
二  
三  
二

~10~

2866

# 第六軍野戦郵便隊部隊略歴

先遣隊

年月日	概要
	<p>野戦郵便隊は従来第十三軍に隷屬しありたるが第六軍の南京地区移動に伴い同軍管下野戦郵便隊は昭和二十年十一月十四日第十三軍より分離第六軍の指揮下に入り第六軍野戦郵便隊と改称せらるるに至れり。当時野戦郵便隊は鎮江・南京・湯水鎮・蕪湖・安慶地区に分散せられありたるが情勢の推移に伴い逐次集中し客年十一月下旬業務を閉鎖し光華門（南京）外集中營及馬鞍山集中營の二ヶ所に集結完了爾来全地に於て集團生活を営み居たり</p> <p>偶々一月十五日右隊員の中六十七名に対し先遣復員を下令せられたるに付同日和平門より乗車翌十六日上海到着十七日江湾東兵舎に入り乗船待期中より囚に本光遣隊は全員内地通信省よりの派遣要員にして復員完了後は夫々の進出局に復帰するものとす</p> <p>昭和二十一年三月二十日市川事務官以下六十七名は上海港出帆三月二十三日博多港上陸同日復員を完了す</p>

~11~

2867

第六軍司令部の一部部隊略歴

隊長 陸軍少佐 小林善士助

年月日	概要
五、四	小林少佐以下九十九名帰還の為司令部主力と分離す
五、五	小林少佐以下九十九名(将校七、下士官二〇、兵七三)はく〇六十師に依り上海出港
五、二	博多港上陸 異状なく夫々帰郷す

三  
小

中  
足  
多  
り  
三

～ス～

2868

第六軍司令部 主力と分離後の行動概要

第一次帰還部隊

年月日	概況
昭三、五、三 (五、三)	主力との分離 中華民国上海市江湾西兵營に於て第一次帰還部隊として分離 帰還部隊兵力、帰還部隊長陸軍少将田部聖以下四六四名
五、三	兼船、上海飯田棧橋にて兼船、吳淞沖一泊
(五、三)	船名、L S T 51
五、二四	吳淞沖出帆
五、二七	仙崎入港
五、三〇	上陸
五、三〇	復員式

況

2869

第六軍司令部の一部 部隊略歴

部隊長 陸軍大尉 奥村利盛

年月日	概況
五、四	部隊主力と分離後の行動
五、五	奥村利盛大尉以下八十三名帰還の目的を以て上海を出発、部隊主力と分離す 奥村大尉以下八十三名（将校三、下士官一〇、兵七〇）＜〇〇〇ヤ卸に依り上 海出港
五、一三	博多上陸異状なく夫々帰還せり

~4~

2870

才七十師団司令部略正

陸軍中將 牧田孝行

年月日	概要
昭二七、四二〇	軍令陸甲才八三に拠り臨時編成完結
自四、二〇 至四、三〇	師団長 陸軍中將 内田孝行 編成地 浙江省 寧波
自四、三〇 至九、一二	編成要員 独立混成才二十旅団司令部基幹 浙江省寧波附近の警備
自五、一四 至五、二八	浙省奉化討伐 金華攻陥
自九、一三 至一八、三、三一	杭州に移駐す 杭州地区及浙東地区の警備及戦斗

年	月	日	概
至	昭二八	四、一	浙江省錢北地区並莞甯地区の警備及戦斗
自	九、一		
至	九、一〇		広徳作戦参加
自	一〇、三一		
至	九、二九		杭州出發
自	一一、三		杭州に反転帰還す
至	二、一		
自	一九、三、一九		莞北、莞甯地区及新占拠地区の警備及戦斗
至	三、二〇		
自	三、二〇		莞北、莞甯地区及金華地区の警備及戦斗
至	六、一		金華地区を担任警備しありしが二十二師団南方移動に伴い同地区の警備を以降りせ担任す
自	三、二〇		
至	六、二		湘桂作戦（衡州作戦）参加
自	七、三		
至	六、九		金華出發
自	六、二六		衡州攻略
至	七、二		金華に反転戻す杭州に帰還す

中又  
その三

小

中又  
その三

~16~

2872



自 昭、九、七、四 至 八、二〇	芑北地区、芑南地区及金華地区の警備及战斗並に温州依戦準備
自 八、三一 至 九、二五	浙南依戦（温州依戦）参加 金華南方試義出発
八、二一 八、二九	麗水攻略
九、一〇 八、二二	梨洞支隊の温州攻略後麗水附近より反戦 金華に火を放つに帰還す
自 九、二五 至 二〇、三、二〇	芑北、芑南地区及金華地区の警備並に浙東沿岸陣地構築 軍令陸甲才十八号に拠り庄の如く臨時編成（編成改正）を担任実施す 才百三十三師団
二、二八	才七十師団及才六十五師団の人員を基幹として 杭州に於て臨時編成完結 独立混成才九十一旅団
二、二五	才十一野戦補充隊の人員を基幹として 寧波に於て臨時編成完結 独立歩兵才百四大隊

~7~

年月日	概	要
昭三〇、三、二八	<p>第七十師團追蹙砲隊          杭州に於て臨時編成完結</p>	<p>第七十師團追蹙砲隊          杭州に於て臨時編成完結</p>
二、二八	<p>杭州に於て編成改正          特設工兵才十二中隊</p>	<p>杭州に於て臨時編成完結          特設工兵才十二中隊</p>
三、一〇	<p>浙江省嘉興附近の警備及陣地構築</p>	<p>浙江省嘉興附近の警備及陣地構築</p>
三、二〇	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>
三、二五	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>
三、二〇	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>
三、二〇	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>	<p>浙江省嘉興附近の警備は</p>
八、一八	<p>安徽省蚌埠到着、同地に於て中西樹との接収業務に従事</p>	<p>安徽省蚌埠到着、同地に於て中西樹との接収業務に従事</p>
八、二三	<p>蚌埠出発</p>	<p>蚌埠出発</p>
二、二、二〇	<p>蚌埠出発</p>	<p>蚌埠出発</p>

~8~

2874

三、二五	上海到着
三、二八	一部（五四六名）上海出帆
三、二八	博多港上陸
三、二八	復員式挙行
三、二八	除隊召集解除す
四、九	一部（二九八名）上海出帆
四、一五	博多港上陸
四、一五	復員式挙行
四、一五	除隊召集解除す
四、一〇	主力（二二八名）上海港出帆、その一部（一五八名）は、
四、一六	舞鶴港上陸、主力（七〇名）は
四、一六	博多港上陸、
四、一六	復員式挙行
四、一六	除隊召集解除す
	除隊召集解除人員（現地除隊を含む）一〇七六名
	編成完結後死亡者 十三名
	生死不明者 十名（本土兵補要員九名を含む）

~9~

2875

3

外

中

支

3

中

支

の

三

	年 月 日
<p>昭、二一、</p> <p>復員児結</p> <p>復員時に於ける入院者</p> <p>十二名</p>	<p>概</p> <p>要</p>

~20~

2876

才七十師団司令部の一部（先発部隊）略正

陸軍大佐

中山 廣一

年月日		概											要										
三、三、一〇	三、三、一〇	師団司令部の一部業務取扱を受け先発隊の編成に着手す																					
三、一三	三、一三	飯巻退着一名発生せしため十日間隔離																					
三、二三	三、二三	縮成尾結																					
三、二三	三、二三	各部隊別縮成左表の如し																					
<p>現在官等級とす 准士官、下士官中に含む</p> <p>各部隊先任者を指揮官とし、各部隊は人員に依り分隊を編成</p>																							
計	庫	兵	下士官	将校	区分	部	班	別	参	副	電	管	自	通	兵	至	軍	隊	兵	勤	中	計	
四九	三	二七	八	一一																			
六八		五九	九																				
二七		二〇	六	一																			
五九		五三	五	一																			
二五	五	一六	三	一																			
二〇		一七	二	一																			
一九		九	八	二																			
二四	二	七九	二八	五																			
一九		二二	四	三																			
一一		七	二	二																			
四五		三三	一一	一																			
八七		六七	一七	三																			
五四三	一〇	三九七	一〇三	三一																			

年 月 日	概 要
昭三、三、二四	上海巢中江湾、東突路出卷
三、二四	上海中心区博物館跡に掃蕩す
三、二五	一四三〇前上海市政府に於て携行諸品の没収を終了す
三、二五	上海飯田棧橋に於て駆逐艦（推号）に架船す（五四二名、一名は駆逐艦橋に便乗す）
三、二五	夕より
三、二六	一七三〇迄天候不良の為、吳淞沖に仮泊す
三、二八	一四三〇博多港に入港、艦換の後、上陸、検査、検査、支給金留の交付等の業務を実施し一八三〇復員式を挙行す
三、二八	九州方面（吉田中尉以下五一名）帰還者を出発せしめ爾余は亦六号倉庫に掃蕩す
三、二九	新に、井上少佐（長以下四八五名）を指揮官とし亦二次復員列車により帰還せしむ
三、二九	中山大佐以下三名は残務整理の為一〇四〇二日市復員本部に出頭す
三、二九	以後中山大佐以下三名は二日市に於て残務整理に着手す
三、三一	南洋浦実地区司令前残務整理員たる下士官一名は用務終了に付帰還せしむ

〜22〜

4  
内  
支  
3

昭二、三、二五

陸軍伍長 斎藤正尊

東船に連れ取逐艦、棉に便束街世保に上陸せり

死生の原因

斎藤伍長は腸チブス兼マラリア(三日熱)により、

以降入院中、

退院す

当時程に歩行障碍あり、特に

江湾兵舎より博多館に到る約四料の行軍に因り着しく歩行の障碍を来し

越人の扶掖に依らざれば困難なる状況となりたり、

三、二五

東船に際しては自動貨車により埠頭迄運搬せしめたるも一時部隊の貨物

監視を命ぜられ監視中人演習戦の最後となり、駆逐艦(雑号)に於ては

運力に埠頭開放の必要上離岸を急ぎありたる為へ部隊到着後この前四十

分、斎藤伍長の束纏寸前に於て艦は離岸するに到りたるを以て危険を虞

爾後の処置

三、二八

部隊埠頭に上陸後、陸軍准尉柳葉正二以下三名を以て佐世保に到らしめ

本人を受領収容せしめ

三、二九

板半復讀本部に届着

昭和 三、三、三〇	年月日
	<p>戦時名簿の整理事項          左記の事項を整理し完了す          復員のたのみの送還者等事項及進級年月日の記入          戦時名簿、仮、写の区分上部欄外に記入          除隊、召集解除区分の総括整理          戦時名簿及除隊召集解除者連名簿の照会点検          生存名簿          生存者名簿の整理及戦時名簿との照会実施</p>

概

要

2242

2880



第 七 十 師 団 歩 兵 第 六 十 一 旅 団 司 令 部 略 正

年月日	概	要
昭二七、二、二 四、二〇	軍令陸甲才八号に依り才七十師団編成下令	
自 四、二九	才七十師団歩兵才六十一旅団司令部編成完結	
至 九、二	浙贛作戦参加	
自 九、三	杭州地区の警備戦斗	
至一八、九、三〇		
自 九、三〇	広徳作戦参加	
至 一〇、三一		
自 一一、一	嘉兴地区の警備及戦斗	
至二〇、二、二八		
自 三、一	杭州湾北岸地区の警備及戦斗	
至 八、一五	復員式実施開始す	
三、二三	復員者総員 二二一名（残所整理者を含む）	

252

2881



5  
内  
中  
支  
3

歩兵第六十一旅団司令部（通称号 槍才二三四〇部隊）略正

年月日	概 要						
昭二七、四、二〇	<p>編成 編成地 浙江省 寧波</p> <p>編成（編成改正）の概要        (一) 歩七十師団歩兵第六十一旅団司令部        各部隊職名を以て新編成す</p> <p>の 編成</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">可令部</td> <td style="text-align: center;">(二) 人員</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">通信班</td> <td style="text-align: center;">人員 一二六名</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">着匹 二〇頭</td> </tr> </table> <p>歩七十師団歩兵第六十一旅団司令部要員として中支に於て編成す        要支当初駐屯地        浙江省寧波        初代旅団長 野副源徳</p>	可令部	(二) 人員	通信班	人員 一二六名		着匹 二〇頭
可令部	(二) 人員						
通信班	人員 一二六名						
	着匹 二〇頭						

272

2883

年月日	
要	<p>           才二代源团长 西股宗吉            才三代 今関靖次            主理参加作戦名及戦死者            浙頼作戦            込徳作戦            歩兵六十一旅団司令部として参加            戦死者 なし         </p>

~28~

(150)

2884



年月日	概	要
昭二、三、三	博習港着、同夕刻着岸	
三、三三	博習港上陸	
三、三三	復員完了召集解除	
三、三三	尚成松大尉は残務整理の為	
三、三三	二日前復員本部に到り処理中	
三、三三	整理終了せるを以て	
三、二七	召集解除精脚せり	

30~

独立歩兵第百二大隊（橋本二三四一部隊）略正

陸軍大尉 奥戸七郎

年月日	概
昭二七、四、二〇	編成
編成地	中華民国浙江省奉化縣奉化
一九二一	他兵團編成改正補填要員を府内独立歩兵第百二十一大隊に兵八十名第六十師団へ將校以下百二十名を転属せしむ
三	華兵團編成要員として建制歩兵一中隊將校以下二百余名を転属せしむ
二〇二一	第百二十四師団要員として一、千三百名の転入を受け
二	新に第百三十三師団編成要員として師団補軍隊及工兵隊に転属せしむ
二、二五	独立歩兵第百四大隊独立混成第百八十九旅団新編成のため歩二中隊機南銃歩兵砲約半中隊を転属せしむ
部隊長官氏名	第百一代大佐 山根次郎 第百二代大尉 奥戸七郎
一六	第百五師団とし濠支の終極地に於て獨立混成師団を至て第百七十師団に編成改正せらる

年月日	概	要
自 九、一二 至 九、一三	浙江省奉化縣奉化並金華義甯義亭	
自 九、一三 至 九、一四	浙江省杭州海寧海鹽杭州餘杭線	
自 九、一五 至 九、一六	浙江省上海特別市並周浦鎮南匯	
自 九、一六 至 九、一七	浙江省海鹽海寧海鹽硤石附近	
自 九、一七 至 九、一八	浙江省海寧硤石——安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、一八 至 九、一九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、一九 至 九、二〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二〇 至 九、二一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二一 至 九、二二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二二 至 九、二三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二三 至 九、二四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二四 至 九、二五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二五 至 九、二六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二六 至 九、二七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二七 至 九、二八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二八 至 九、二九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、二九 至 九、三〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三〇 至 九、三一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三一 至 九、三二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三二 至 九、三三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三三 至 九、三四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三四 至 九、三五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三五 至 九、三六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三六 至 九、三七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三七 至 九、三八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三八 至 九、三九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、三九 至 九、四〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四〇 至 九、四一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四一 至 九、四二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四二 至 九、四三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四三 至 九、四四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四四 至 九、四五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四五 至 九、四六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四六 至 九、四七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四七 至 九、四八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四八 至 九、四九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、四九 至 九、五〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五〇 至 九、五一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五一 至 九、五二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五二 至 九、五三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五三 至 九、五四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五四 至 九、五五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五五 至 九、五六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五六 至 九、五七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五七 至 九、五八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五八 至 九、五九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、五九 至 九、六〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六〇 至 九、六一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六一 至 九、六二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六二 至 九、六三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六三 至 九、六四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六四 至 九、六五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六五 至 九、六六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六六 至 九、六七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六七 至 九、六八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六八 至 九、六九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、六九 至 九、七〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七〇 至 九、七一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七一 至 九、七二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七二 至 九、七三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七三 至 九、七四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七四 至 九、七五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七五 至 九、七六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七六 至 九、七七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七七 至 九、七八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七八 至 九、七九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、七九 至 九、八〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八〇 至 九、八一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八一 至 九、八二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八二 至 九、八三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八三 至 九、八四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八四 至 九、八五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八五 至 九、八六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八六 至 九、八七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八七 至 九、八八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八八 至 九、八九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、八九 至 九、九〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九〇 至 九、九一	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九一 至 九、九二	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九二 至 九、九三	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九三 至 九、九四	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九四 至 九、九五	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九五 至 九、九六	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九六 至 九、九七	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九七 至 九、九八	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九八 至 九、九九	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	
自 九、九九 至 九、一〇〇	安徽省鳳陽縣蚌埠附近	

外 中 又 3

~22~

2888



昭三、二、二六

二、二六

二、二六

博多港上陸

自一四〇〇  
至一五三〇 復員式を挙行

復員式終了後本土方面及九州方面に各々分進

人員

東地除隊 三八名

内地除隊 一〇七〇名（残務差遣者二を含む）

入院患者 七七名

死歿者 一八〇名

2322

018

2889

第百二十師團獨立歩兵第百二大隊略正

年月日	概	要
昭二七、二、二	<p>軍令陸甲才八号に拠り獨立混成才二十旅團復員（復飯）並に才七十師團附時編成下令せりる</p>	
四、二〇	<p>大隊は直に駐廻浙江省奉化景奉化に於て復員業務並に才七十師團獨立歩兵才百二大隊編成業務に着手せり</p> <p>浙江省奉化景奉化に於て獨立歩兵才百二大隊編成完結才七十師團歩兵才六十一旅團の隷下に属す</p> <p>大隊は</p>	
自 四、三〇 至 九、一一	<p>の甬浙嶺作戰に参加、旅團の先遣隊或は旅團直轄として幾多戦功を樹つ、概中金華北方赤崙山に於ては機関銃中隊独自の攻戦に依り敵の塁を拔き之を潰滅せしめ又金華急坂に墮下したる約一ヶ師の敵を阻止し之を蹙退し以て師團主力の金華攻略を容易ならしめたり</p> <p>金華攻略後は主として義勇隊守府附近にありて兵站線の確保附近の警備軍米収集に鋭意努力し以て軍の爾後の作戰遂に遺憾なきを期したり</p>	

~4~

千 五 三

昭一七、九、二

以餘杭州附近に取進し主力を寛橋各一中隊を斜橋長堤、扇平に配置し海杭沿線の治安確保及鉄道警備に任じ

一八、三、末

主力は更に海野景長堤に移駐し依然前任務を履行する外更に警備地区を拡大し

一〇、

より開始せられたる太湖東南地区より二期清鄉工作に従事す

一九、五、

この間大小茂野の討伐に参加又期区内の別荘を突進し河大の戦果を挙げたり以餘余杭諸陽地区の警備を独立歩兵才百五大隊より継承し長堤地区より三中隊を派し之が警備並に治安確保に任ず

一一、

軍は杭州湾北岸地区に光写作戦準備下令せられ沿岸陣地構築を開始す、酷寒冷風吹き荒ぶ中に於て將兵は毅然として任務に取進し光写作戦準備に遺憾なきを期せり

次々

二〇、三、末

歩兵才六十一旅団(師長 師長)は上海に派遣せられ才六十一師団長の指揮下に入りしめられ大隊は上海南方周浦鎮南漕附近に取進し海岸一帯並に中隊に堅固なる陣地を構築すこの間

四、三〇

才百六十一師団編成完了し歩兵才六十一旅団は指揮系統を才六十一師団より才百六十一師団に転移せるも依然現任務履行す

五、

に至りて旅団司令部及独立歩兵才百四大隊は原所處に復帰せしめられ大隊は

~35~

2891

年月日	要
概	<p>更め之ヲ百六十師団歩兵才百二旅団長の指揮下に入らしめられ現任務を履行 中</p> <p>歩兵才百二旅団の配属を解かれ現所屬に復帰し二中隊を師団長直轄とし浙江 省海鹽に至り同地附近の警備に任ず</p> <p>乍浦附近に於ける甲の突進する所団才三次研究演習に於て大隊は攻襲軍とし て参加す</p> <p>大隊は一中隊を海鹽に残置し一中隊を澈浦に派遣し警備に任せしめ主力は硤 石に移駐し同地附近の警備、泊留維持確保並に陣地構築に從事す</p> <p>八月上旬「干」号作戦に参加中「ソ連」の参戦により軍は大号作戦を企圖し 大隊は急処原班地に集結之が戦進を準備中</p> <p>遂に終戦の大詔を接収せらるる軍は依然として大号作戦参加のため大隊は 硤石出發北方に向い輸送を開始したるも状況の変化により空襲警備隊に駐留 するの已むなきに至り所団主力は蚌埠に集結す</p> <p>歩兵才六十一旅団は淮河沿岸作戦を実施す大隊は之に参加し淮南地区の確保 一カ月有餘にして任務を中國軍に引継ぎ蚌埠に集結す、蚌埠集結と同時に武 裝解除を実施せられ遂に編成以不補たる師團を有する獨立歩兵才百二大隊 の正史も終末を告ぐに至れり</p>
要	<p>至 自</p> <p>八、下旬</p> <p>八、下旬</p> <p>八、一四</p> <p>八、一四</p> <p>八、中旬</p> <p>七、中旬</p> <p>六、二六</p> <p>五、二〇、六一五</p>

~26~

<p>昭一七、二〇、二五</p>	<p>大隊の編成は大隊本部指揮機関歩兵五中隊、機関銃一中隊歩兵砲一中隊にして編成要員は將校は才三十九名尉より軍士官は才六名尉才三十九名尉才四十名尉より兵は独立連隊才十三名旅団より各々補充を受く。</p>
<p>二、中旬</p>	<p>補充隊より一七八名の補充を受く</p>
<p>一八、二、</p>	<p>將校以下約三百名を精選のため歩兵才十一連隊補充隊に戦死せしむ 昭和十七年徵集東役兵約五百名の補充を受け大隊に一大威力を加え日夜鋭意訓練に近達す</p>
<p>七、下旬</p>	<p>補充交代精選のため兵九五名を補充隊に戦死せしむ</p>
<p>一九、一、</p>	<p>旭兵団編制改正に伴い独立才百二十一大隊より選制中隊を抽出せられ之の補充要員として兵八〇名を同大隊に戦死せしめ更に才六十一師団へ將校以下約二十名を戦死せしむ、なお右抽出人員補充のため才十三師より現地召集兵四十名の補充を受け又歩十一補充隊より昭和十八年徵集東役兵約二百五十名の戦死を受く</p>
<p>三、</p>	<p>華兵団編成のため歩兵一中隊の差出しを命ぜらるる才三中隊野口大尉以下二百有余名を戦死せしむ、之が補填として各中隊より名々兵力を抽出し爾本中尉を長とする才三中隊を新編成す</p>
<p>四、上旬</p>	<p>面部軍より將校以下十八名</p>
<p>四、下旬</p>	<p>歩兵才十一連隊補充隊より兵七十名の補充を受け各中隊の欠員兵力を補充す</p>

年月日	概
昭五、五月中旬	補完隊より補充兵百七十名の補充を受け
六月中旬	中部軍より下士官三十七名の補充を受け、 當時は大隊の警備地域は広範囲に亘り兵員不足の折衝
九月上旬	歩兵才十一連隊補充隊より將校以下三百名の補充を受け既欠員兵力補充し 得たり
一、二月中旬	昭和十九年敵集塊隊兵（半爲挺身兵を含む）五百名の補充を受け
二〇、二、下旬	才六十四師團要員としての南京に滞留中の昭和十九年敵集塊隊一、千三百名の職 入を受け
二、下旬	之を才百三十三師團編成要員として才七十師團輜重隊及工兵隊に戦出せしむ
二、二五	飯立歩兵才百四大隊は飯立混成才八十九旅団に戦出せしめたためその補填要員と して歩兵二中隊（才一才四中隊）歩兵砲半中隊を戦出せしむ、才一中隊才四 中隊編成のため才三中隊長を才一中隊長に才五中隊附柳堂中尉を才四中隊長 とし各中隊より兵力を抽出し二中隊を構成す
四、下旬	上游滞留中の直兵団要員たる昭和十九年敵集塊隊兵百二十名補充を受けたり 以上に於て部隊異動は大々的に行われ乗換も幾度変遷したるも教育訓練は甚 も弛緩せず益々以之訓練周到を期し大隊時異性を発揮し以て任務に遺憾なき を期したり

→8~

昭二〇、

兵番は漸成以來大なる異動なく昭和十九年昭和二十年に至りて他部隊編成のため差出しを余儀なくされ軽兵番、重火番共一掃欠数となりたるも新たに選射砲二、重機砲その他軽迫重砲野擲等の補充を受け光写作戦準備に備えたり

~29~

2895

獨立歩兵才百三大隊部隊略正

陸軍少佐 河野隆夫

年月日	概略
昭二五、 二三、二六 二二、三〇	<p>部隊名</p> <p>獨立歩兵才百三大隊 通称号槍才二三四二部隊 部隊長官氏名</p> <p>才二代 陸軍中佐 小野田太郎 才二代 陸軍少佐 大場信平 才三代 陸軍少佐 河野隆夫 軍令陸甲才五十七号に拠り</p> <p>編成下令</p> <p>編成完結</p> <p>編成地 中華民国江蘇省宝山県江湾鎮 部隊編成</p> <p>本部 一</p> <p>一般中隊 五</p>

2896



至 一〇、四	自 九、二三	至 九、二二	自 五、一三	至 五、一二	自 五、九	至 三、二五	自 三、一二	至 五、八	自 二、二二	至 二、二一	自 二、二〇	至 二、一五	自 一六三、一四	至 一六三、一五	自 一五、三三	至 一五、三一
			浙江省鄞縣寧波に向う戦進並に集結	武漢地区の警備及戦斗	輸送業務並に武昌集結	錦江作戦参加	南昌附近の警備及作戦参加 この間	江西省南昌着	江西省九江上陸	吳淞江出発	上海出発	上海に於て火期作戦準備及教育訓練	歩兵砲中隊	機砲中隊		

~41~

年月日	概	要
自昭二六、一〇、五 至一七、三、三一	寧波余姚附近の警備及討伐業務（復員業務）	
自四、一 至四、二九	才七十師団の編成業務及余姚地区の警備	
一七、四、一 四、二〇	昭和十七年軍令陸甲才八号に依り才七十師団編成下令 編成完結	
自四、三〇 至五、一〇	余姚地区の警備及戦斗	
自五、一一 至九、一二	浙贛作戦参加	
自九、一三 至一八、九、一一	浙江省呉寧湖州に在りて湖州周辺地区の警備及戦斗	
自九、一二 至一〇、三一	広徳作戦参加	
自一一、一 至一九、三、一九	浙江省安吉県安吉に在りて屯北屯南及新占拠地区の警備及戦斗	

~42~

2898



年月日	概	要
昭三二、二六 三、七 三、八 四、四	<p>内地帰還のため輸送準備並に輸送、            博多港上陸及復員式並に部隊解散            人員の状況</p> <p>内地除隊（召集解除）            内地除隊（            現地除隊（            入院患者（昭和二一年四月四日現在）            生死不明者（本土兵補要員朝鮮兵逃亡兵）            部隊創業以来の死亡者</p> <p>戦死（戦場死）            戦病死            不慮死            変死            残留者            処刑者</p>	<p>九五二名            七一名            八一一名            二六名            一八二名            九九名            七八名            三名            二名            名            名            名            名</p>

才七十師団独立歩兵才百四大隊部隊略正

陸軍大尉 山本 英 貞

年月日	概 要
昭二〇、	昭二〇軍令陸甲才十八号に基き編成下令
二、二五	編成地 甲支浙江省嘉兴県嘉兴
三、一五	編成担任部隊 才七十師団歩兵才六十一液田司令部
三、一五	編成完結
五、一九	移駐のため嘉兴県移
五、二〇	江蘇省上海新豐華到着
五、二〇	同地附近の警備並陣地構築
五、二〇	江蘇省松江県華荘鎮に移駐
七、二四	華荘鎮に於て附近の警備並陣地構築
七、二五	浙江省嘉兴に移駐同地附近の警備陣地構築並乙号作戦に参加し終戦に到る
八、一四	終戦詔書発布

2452

2901

年月日	概 要
昭三〇、八、二〇	移駐のため蕪興出張
八、二八	安山徽省鳳陽縣蚌埠に到着
八、二五	復員下令
二二、二、二〇	復員精選のため野津発
二、二四	上海に乘船
三、一三	上海出帆
三、一七	博多上陸
	復員完結
	編成以来の参加主要作戦
自二〇、八、一	対米來戦の準備作戦（乙号作戦と呼称す）に初編挺身隊に編入参加し浙江省
至八、一三	於浙南辺の中尖才二十八衆団軍を潰乱せしむ
	正代部隊長
	初代
自二〇、八、二五	陸軍大尉 山本素貞
至二二、三、一七	

~46~



才七十師團獨立歩兵才百五大隊部隊略正

陸軍大尉 大西 栄 蔵

年 月 日	概 要
昭、五、一三、二	軍令陸甲才五十七号に依り獨立混成才二十旅團獨立歩兵才百五大隊臨時編成 下令
一三、三〇	上海王浜雁行場に於て結成式を挙行編成完結す
一三、三〇	同地及南浜疎小里に在りて上海附近の警備に従事し
一六、三、一五	上海港出張南望眺崗に到り同地附近の警備及次期作戦を準備す
三、一一	望眺崗を出張、滬江作戦に参加し
四、二	原駐地に帰還同地の警備に任ず
五、八	南出出張
五、一一	武管に到り同地に於て集結、訓練
八、三一	信陽附近の戦斗に参加
九、二九	武管出張寧波に戦徒
一〇、四	漢口鎮附近の警備及戦斗に従事す
一七、三、二	軍令陸甲才八号により才七十師團臨時編成下令

~x8~



年月日	概
冊、一七、四、三〇	歩七十師団独立歩兵才百五大隊編成完結し前任務を履行す
四、三〇	漢口鎮出発奉化に東浙贛作戦に参加
五、二六	浙贛の要衝金華京城を攻略爾後
九、一二	に到る間同地及武義附近の警備及戦斗に参加し
九、一三	杭州地区に転進余杭地区の警備及戦斗に任ず
一八、七、二五	杭州に移駐同地区の警備に従事す
九、一〇	広徳作戦に参加し
一一、二九	杭州に帰還するや
一一、二〇	受慶地区に転進揚子江岸の警備に転用され
一九、三、四	再び杭州に帰還し原任務を履行す
五、三〇	杭州出發再び浙贛の地に進駐金華に到り湘桂作戦へ領川作戦へに参加
七、四	板川に帰還す
七、二四	嘉兴地区に転進同地区の警備戦斗、並に陣地構築作業に従事し
二〇、三、二七	松江に更に
六、一〇	亭林鎮に転進し尤写作戦を準備す
八、一一	嘉兴に東浙特務中
八、一四	大詔頒発さる

~々~

年月日	概 要
昭三〇、八、二九	嘉兴出発
八、二六	蚌埠着、同血漿中管に於て復員を準備し
二、三、三〇	蚌埠出発
二、二四	上海に集結す
三、一二	上海出帆
三、一五	博多上陸し復員式施行各々帰還す
一五、三、三〇	<p>復員者 総員一〇六五名（残務整理者二名を含む）</p> <p>入院患者 一二二名</p> <p>獨立混成旅団編成以來</p> <p>死致者 三二三名</p> <p>生死不明者 九名</p>

500

2906